



徳島ダルクフォーラム

テーマ：「死にたい」と「生きていたくない」はどうがうのか？

開催日時：令和8年 1月 11日（日）13時～16時（12時半開場）

《講師ご紹介》

◆倉田 めば 氏（Freedom代表、大阪ダルクディレクター）



～プロフィール～

尾道市出身。大阪写真専門学校卒業。

1993年フォトグラファーの仕事をやめ薬物依存回復施設「大阪ダルク」を設立。2002年、薬物依存症からの回復を支援する市民団体「Freedom」を多くの賛同者とともに設立。新たな社会資源の創出に向けて奔走中。

メンタルヘルス・ソーシャルワーカー。
パフォーマンス・アーティスト。

14歳の時から、シンナー、鎮痛剤、大麻、処方薬などを乱用し始める。18歳の時に東京に家出。リストカットも止まらなくなる。22歳、薬物依存と自傷のため初入院。以降29歳まで4回の入退院を繰り返す。20代の2年近くを精神科病棟で過ごす。仕事はアダルト業界カメラマン。29歳の時、自助グループと依存症の回復施設につながり、クリーン（薬物を使わない生活）が始まり現在に至る。

◆精神科医 吉田 精次 氏（藍里病院 副院長） ◆弁護士 瀧 誠司 氏（うずしお法律事務所 代表弁護士）

◆精神科医 井上 麻由 氏（藍里病院 医局長） ◆徳島ダルク家族会「メリーゲート」

◆看護師 藤原 稔章 氏（藍里病院 精神科認定看護師） ※裏面にプロフィール掲載

参加費：無料 ※申し込み不要、当日参加OK

会場：社会医療法人 あいざと会 藍里病院（C棟）

住所：徳島県板野郡上板町佐藤塚字東288-3



（受託団体）徳島ダルク

《徳島ダルクホームページ》

（お問合せ先）徳島ダルク ディレクター 村上 亨



（TEL）080-3994-4173 （Mail）tdarc1212@gmail.com

「令和7年度 みんなが主役の人権啓発推進事業（徳島県委託事業）」

～依存症者の地域における回復と人権を考えるフォーラム開催事業～

～講師プロフィール～

精神科医 吉田 精次 氏（藍里病院 副院長）

1981年、徳島大学医学部卒。2001年からアルコール依存症治療を開始。徳島刑務所における薬物離脱教育を6年間担当。2007年からギャンブル依存症の治療も開始。

現在は依存症全般を専門として治療にあたっている。

依存症家族勉強会を2005年から院内で毎月開催。依存症問題に悩む家族のための強力な援助プログラムであるCRAFTを全国的に広める活動を行っている。アルコール問題の一次予防活動として小学校6年生から高校生を対象に、ダルクのメンバーと共に「アルコール・薬物乱用防止教育」の出前授業も行っている。自殺予防活動として自殺予防面接技法研究会を主宰。

精神科医 井上 麻由 氏（藍里病院 医局長）

2005年徳島大学医学部卒業。精神科医師17年目。

今でも忘れません。11年前に突然私の診察室に迷い込んだギャンブラー。それまでの人生、どちらが正解かどちらが有利かの目利きを磨くことこそ生きること、みんなそうだと疑わなかった私には、彼が語る言葉見せる行動全てが青天の霹靂。診察前には毎回、負けてはいけないと心と理論の武装をしていました。

戦闘モードでスタートしたこの11年ですが、武装は役に立たず、薄っぺらい諭しは見抜かれ無力を痛感し、ようやく肩の力が抜けてきた近ごろです。正解か否かが通用しない彼らの瞳にうつる景色と一緒にみていくと、日々診察室で過ごしています。

看護師 藤原 稔章 氏（藍里病院 精神科認定看護師）

平成7年 社会医療法人あいざと会藍里病院へ入職。

平成12年 看護師免許を取得。

平成16年度 久里浜医療センターにて、アルコール依存症臨床医等研修（看護師コース）の課程を修了。

平成27年 一般社団法人日本精神科看護協会の精神科認定看護師の資格を取得。

平成27年 依存症治療拠点病院事業薬物依存症に対する認知行動療法研修の課程を修了。

平成30年12月 平成30年度ギャンブル等依存症治療指導者養成研修の課程を修了。

現在に至る。

弁護士 瀧 誠司 氏（うずしお法律事務所 代表弁護士）

東京大学法学部卒。平成14年10月に司法試験に合格。

平成16年10月に徳島弁護士会に登録し、あわ共同法律事務所で執務。

平成23年12月19日に独立して、うずしお法律事務所を創立。

令和4年度 徳島弁護士会会長。

徳島南ロータリークラブ・徳島絆ネット・NPO法人アプローチ会など、高齢者障害者の権利擁護活動や自殺防止活動・子どもの人権活動に造詣が深い。

新たに徳島ダルクの活動を後輩弁護士とともに支援している。

